



# わたしたちはどう生きるのか 人間だけが希望だ

書籍「わたしたちはどう生きるのか」の執筆者と共に対話をしながら学びを深める

定員 20名

定員になり次第受付終了  
※こちらの専用フォームから  
お申し込みください。



2025年11月8日（土）～9日（日）

会場：古民家空間 kotonoha（民泊＆レンタルスペース）  
兵庫県多可郡多可町加美区三谷 255

参加費：12,500円 宿泊費＆食事代（夕食／朝食）込み ※宿泊は希望者のみ

対象：障害児者福祉事業所等の対人援助職スタッフや  
社会福祉、被害者支援、心理関係者など

「人が人に寄り添う」とは  
「生きるとはなにか」という  
根源的なテーマについて  
共に考えます

11月8日（土）13:30～19:30

■13:30～15:30  
講演「その後をどう生きるのか  
—JR 福知山線脱線事故の体験から—」  
（講師：小椋 聡さん・脱線事故2両目乗客）

■15:30～17:30  
ワークショップ①「出会いと分かち合い」

■18:00～19:30 夕食・懇親会  
オルガン演奏＆お話  
（小椋 朋子さん・オルガニスト／脱線事故被害者の家族）

11月9日（日）9:00～15:00

■8:00～9:00 朝食

■9:00～10:00  
講演「加害企業社員と被害者という『関係』をこえて」  
（講師：高本 桂也さん・元 JR 西日本被害者対応本部職員）

■10:00～12:00  
トークセッション  
「わたしたちはどう生きるのか」  
小椋 聡さん × 高本 桂也さん × 豆子 寿士  
（司会・聞き手）

■12:00～13:30 昼食

■13:30～15:00  
ワークショップ②  
（参加者との意見交換）  
感想の発表／マインド  
フルネス体験

## 【登壇者のプロフィール】



小椋 聡さん（デザイナー／古民家空間 kotonoha オーナー／ JR 福知山線脱線事故2両目乗客）

音楽大学の作曲学部作曲専攻を卒業。

27～30歳のときに震災で被災した動物や虐待・遺棄された動物を保護している民間のアニマルシェルターで勤務。高齢や末期の病氣など、これまでに16頭の動物を看取ってきた。

31歳のときに国内外の展覧会の企画運営をしている会社、編集デザインの部署で編集長として勤務していたが、35歳のときに通勤途中で JR 福知山線脱線事故に巻き込まれ、もっとも被害者が多かった2両目の「く」の字に折れ曲がった箇所で負傷した。事故後、乗車車両すら分からなかった遺族と共に「最期の乗車位置」を探す活動を行う。事故の影響で妻が精神的な障害を発症したこともあり、38歳でデザイナーとして独立。

43歳のときに兵庫県・多可町に移住し、傷んだ古民家をデザイン事務所兼民泊・レンタルスペースとして改修し、新たなコミュニティ創りに貢献できる空間を提供し、地域の中で民間団体を立ち上げて運営している。

また、海外での生活や幼少期からの転居、就職、独立、法人運営などの経験も踏まえ、一般向けに「多様な生き方」や「いのち」についての講演やメディア向けの「報道倫理について」などの講演・講師も行っている。

高本 桂也さん（産業カウンセラー・国際規格認証審査員／元 JR 西日本被害者対応本部職員）

大学卒業後、JR 西日本に入社。

福知山線列車事故以前は三ノ宮駅や姫路駅で、フロントサービスを含めた教育指導やお客様の声対応のほか、人身事故のような異常時対応等、駅業務全般に携わる。事故後は安全推進部門で計画策定、各種訓練の実施、トラブル調査、監督官庁との折衝を通算10年担当。

2011年からは福知山線列車事故のご負傷者の担当者となる。被害者の言葉から気づきを得たことから人生観が変わり始め、現在はフリーランスとして様々な切り口から世の中の安全や安心に関わる生き方を模索中。産業カウンセラー、国際規格認証審査員、ドローン操縦士（二等）。



小椋 朋子さん（オルガニスト／脱線事故被害者の家族）

音楽大学の器楽学科パイプオルガン専攻を卒業後、演奏活動を始める。

現在、一般社団法人日本オルガニスト協会会員。日本基督教団大阪教会のオルガニストとして演奏するかたわら、淀川キリスト教病院の音楽礼拝も担当するなど各地で演奏を続けており、夫と共に「古民家空間 kotonoha」で民泊の運営やイベントの企画運営などを行っている。

事故後、JR 福知山線脱線事故に巻き込まれた夫と遺族や負傷者らと活動を共にする中で、身近な人が経験した出来事を自身のこのように受け止める心身反応の代理受傷により双極性障害を発症し、現在も毎月「こころのケアセンター」に通院している。



豆子（西尾）寿士（特定非営利活動法人 ラルゲット理事長／司会・聞き手）

大学時代に障害児の放課後支援のボランティアや、重度障害者の自立生活を支援する介護者の活動を経験。社会変革をめざし、反差別運動や学生運動に没頭。

34歳、韓国・朝鮮語学習のためソウル・延世大学語学堂に半年留学。

帰国後、知的障害者通所施設にて生活支援員・就労支援員・施設長を経験し、2007年カウンセラーとして独立・開業（「ケアをする人」のメンタル・サポート Larghetto—ラルゲット—）。

その後、大学院を卒業し臨床心理士資格取得。大阪市内の委託（現在は基幹）相談支援センターにて相談員として勤務。2014年、特定非営利活動法人ラルゲットを設立し理事長となる。



主催：【宿泊付き体験型へのワークショップ参加申込・お問合せ】

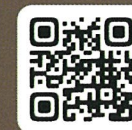
特定非営利活動法人 ラルゲット 担当：浜田（事務長）

☎ 06-6180-4228 ☎ 06-6180-4229

✉ info@npo-larghetto.jp

《法人ウェブサイト》

参加申込みの締め切り等については、こちらのサイトでご確認ください。



<https://www.npo-larghetto.jp/>

NPO 法人ラルゲットは、平成29年10月に施行された新たな住宅セーフティネット法に基づき、大阪府より居住支援法人の指定を受け、法に基づく住宅確保要配慮者※への賃貸住宅への入居サポート並びに居住生活支援活動を行っております。（居住支援法人登録番号：大居095）

※「住宅確保要配慮者」とは？

高齢者や低所得世帯、子育て中の方、障害者、外国人世帯などのほか、犯罪被害者や被災者などのことです。当法人は主に障害者の方の支援を行っています。

相談受付：月曜日～土曜日（木・日・祝休） 受付時間：午前9:00～午後6:00

居住支援専用電話：070-3189-1903 メールアドレス：info@npo-larghetto.jp